

道一筋 中井虎男 傳

再版に寄せて

執筆者等紹介

柘植 宗尚 「道一筋 中井虎男傳」再版にあたり、祖父中井虎男を偲ぶ

三宅 昭二 香川県立観音寺第一高等学校同窓会長（中井虎男先生を恩師と慕う旧制三豊中学卒業生の同窓会を受け継いでいる。）

島田 政輝 香川県立観音寺第一高等学校長（中井虎男先生は、旧制三豊中学（現観音寺第一高等学校）で三十年間、

教鞭をとられた。観音寺第一高校は、平成二十三年度から文部科学省の「SSH研究指定校」となり、校長先生はじめ教員が一丸となり、未来の日本を支える生徒を育てようとしている。）

浜田 恵造 香川県知事（中井虎男先生は、第一回の香川県教育文化功労者として、当時の金子正則知事から表彰された。浜田様は現在の知事で観音寺第一高校出身。）

白川 晴司 観音寺市長（中井虎男先生は、大野原に在住し、村長を十年間勤めた。平成十七年に大野原町は、観音寺市と合併した。）

平野 清 元大野原町長（中井虎男先生は大野原町名誉町民第一号である。平野様は、現在の観音寺市に合併する前の、最後の大野原町長）

高田 耕治 香川県立琴平高等学校長（高田様は、現在の香川県高等学校教育研究会数学会長である。中井虎男先生は、数学会の特別顧問を務められ、和算の研究を中心に香川県の数学界に寄与された。）

渡邊 究 香川県立三豊工業高等学校長（中井虎男先生が三豊工業高等学校に扁額「事上練磨」を寄贈され、この言葉は、後に同校の校訓となった。）

大平 幸男 観音寺市教育長（父親である故大平清秀先生は、「道一筋 中井虎男傳」初版本の編集責任者を務められた。）

中田 清 三豊・観音寺教育会 会長（三観教育会から昭和五十八年に「道一筋 中井虎男傳」初版本が発行され、今回の再版についてご協力をいただいた。）

高橋 計一 「道一筋 中井虎男傳」初版本の編集委員（現在もご健在である。当時のことを振り返りながら、今回の再版を非常に喜ばれている。）

まえ書きにかえて

「祖父中井虎男を偲んで」

柘植 宗 尚

二〇一一年は、『3・11東日本大震災』『台風による大災害』があり、われわれ日本人にとって、忘れることのできない、忘れてはいけないうちになりました。「先人の教えを大切にしなければいけない。自然の脅威の前に、人間は謙虚にならなければいけない。真摯な気持ちで研究を続けなければいけない。」ということを思い知らされました。

観音寺一高の前身である旧制三豊中学の卒業生で、大平元内閣総理大臣が残された「在素知贅ざいそちぜい」という言葉があります。「生活は質素に、でも心は豊かに、志は高く」という意味だと言われていますが、これから生きる姿勢として胸にきざみこまなければいけない言葉だと思っています。

さて、私の祖父中井虎男が昭和四十四年に他界したときに、大平元総理が、ちょうど大野原小学校で国会報告会を開催しており、次のような一文を残されております。

『中井虎男先生と三豊の天地』から全文

時正に中秋。天地愈々いよいよ寂静、万象悉く清澄、人各々深い反省と思索に沈潜する時、先生は、九十年を超ゆる偉大な生涯を、静かに閉じられました。それは先生らしい大往生であり、偉大な終焉でありました。その日、偶々たまたま私は大野原小学校において、国会報告演説会を開いておりました。私の挨拶は、はしなくも先生に対する追悼の辞で始まり、欽慕きんぼの言葉で結ばれることになったのであります。

先生の一生は、南に雲辺寺山を頂点とする阿讃の山並を仰ぎ、西に白く光る燧洋を見下ろす三豊の天地に終始されました。先生は広く深く三豊の自然を愛しつくしました。また凡そ三豊に生を享けた人は、悉く先生の慈顔と温容を仰ぎ、先

生の学徳と高風に接する幸せをもつことができたのであります。

人呼んで先生を「三豊聖人」という、むべなる哉であります。先生はその貴い生涯を学理の探究と旧制三豊中学（現観音寺一高）を媒体としての子弟と郷党の教育に傾倒されました。先生はみずからが天才的な数学者であり、従って先生の門下よりは、矢野健太郎教授をはじめ数多くの優れた数学者を輩出しております。数学はすべての学問と人間の一切の営みの基礎をなすものであります。先生の門下生が、その学問とその事業を通じて、先生から享けた数学的な解明力と構想力によって、いかに裨益したかは、計り知れないものがあります。先生は、また終戦直後の混乱期に、推されて大野原の町政を預けられたことがあります。常住坐臥、公平と無私を旨とされ、事の中にありて事を解明され、事の外に在りて事に処され、人々の信望と敬愛を集められたのであります。

ここ数年来、先生は病床にふせられ勝ちでありました。そのお姿は正に消えようとするともしびの、かぼそい点滅にも似たものがありました。しかし先生は、その間にあつても、日夜渝ることなく数理の世界や人生の哲理に深く沈潜され、或いは詩句や日本画を通して芸術の林をも丹念に逍遙されておりました。また病床にありながらも朝夕子弟を思い世を憂えられた、静かな充実した神々しい日常でありました。かくて先生の存在は、われわれ子弟と郷党を導く巨星であり、反省と激励のつきぬ泉であられたのであります。

先生は数学者でありましたが、またそれ以上に教育者でありました。先生は子弟と郷党に父のような犯し難い威厳と、母のような限りないいつくしみを以て接せられました。先生は自分の幸せよりも人の幸せをこい願われました。人の悦びをそのまま自分の悦びとしてかみしめられました。更に先生には富や地位を求められる俗念は全くなく、その永い生涯を専ら枯淡と清貧の境に終始されました。有限の成功をみずからに求められることなく、只管無形にして無限の成功を子弟と郷党の中に追求されました。真の偉人とはかくの如き方であるということができます。

十月十二日未明、先生はこの世において為すべき一切の事を成し遂げられ、みずからのすべてを子弟と郷党に与え尽され、ともしびの消えるが如く、静かに帰幽されました。先生の人生は更に加算すべき何ものもなく、更に除算すべき何ものもない傑作の人生であり、その終焉もまた神々しく完璧でありました。

三豊は、今日、その道義と学問、人格と成功をその根本において大きく支えてくれた巨人を失いました。三豊の人々はもとより、三豊の山野における一木一草に至るまでが、先生の長逝を悼み、その遺徳を欽慕したのであります。先生の有限の生は十月十二日を以って終止いたしました。先生が残された無限の生命は、とこしえにわが三豊の道標として、いよいよその精彩を発揮し、われわれ後進を導き励ましてくださることを確信いたします。

言葉は尽きないものがありますが、ここに欽慕の至情をしたため、在天の英霊が涼しい微笑を以ってこれを享けられることを祈って已みません。（昭和四四年一〇月二日）

祖父中井虎男の生き方等については、昭和五十八年に発行された「道一筋中井虎男傳」にくわしく書かれております。残念ながら、発行から三十余年が経過し、若い人たちが手に入りにくい状況にあります。

また、最近少子高齢化に対応するための「ふるさと活性化」の取り組みが盛んに行なわれていたり、平成二十三年度から小中高等学校においては、生きる力の育成のために「新学習指導要領」が実施されています。

そのような中、観一卒業生の小山洋一氏のご厚意により、今回「道一筋中井虎男傳」の再版がかなうことになりました。平成二十三年度から、母校観一は、文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール事業」の研究指定をうけ、「将来の国際的な科学技術系人材を育成することを目指し、理数教育に重点をおいた教育活動に関する研究開発をおこなうこと。」になっているとも聞いております。この書物が、生徒・教員の教育活動に役に立つことができばと思っております。

また、教育活動に携わる人、一般の方々についても、できるだけ皆さんの皆さんに読んでいただき、将来の生き方の道標となれば幸いです。なお、祖父中井虎男がお世話になった組織の皆様（現在の代表者等）の寄贈文を付しておりますので、参考にしてください。

中井虎男傳を読んで

観音寺第一高等学校同窓会長 三宅 昭 二

中井虎男先生は、旧制三豊中学時代に幾多の生徒の敬慕を集めた偉い先生であつたと聞いていましたが、先生が退職された年に生れた観一高第四回卒の私達には遠い昔の方として深く知る機会がありませんでした。

このたび伝記を読み、先生の私欲を離れた謙虚さ、人間愛と生涯に亘る数学等の研究の深さを知り大変感銘をうけました。このような偉大な方が、我が観一高前身の旧制三豊中学で、三十年間も教壇に立たれていたのです。観一高の伝統は中井先生とその教え子の時代から今日まで脈々と受け継がれて来ていることを感じます。身近な方のように思えて、銅像に向かつてみんなで「帽子かけ」をした記憶しかない事を恥じております。

それにしてもこの伝記は、先生の生い立ちから、旧制三豊中学時代、村長時代と晩年、数学の研究、広く深い人間像など多岐に亘っているすばらしい内容です。これ程の方がわが郷土におられたのか、と感にたえません。

この伝記を多くの人々や、現役観一生に読んでもらおうとして自費出版された小山洋一氏には、改めて深く敬意を表するところです。

序文で加藤藤太郎氏が云われているように「中井先生に接する機会のなかった方々には少しでも多く、深く、先生を理解し感銘を受けられるために役立って」頂きたい伝記だと強く感じているところです。

「道一筋 中井虎男傳」の発刊を祝す

香川県立観音寺第一高等学校長 島田政輝

中井虎男先生は、本校の前身、旧制三豊中学の数学教師として三十年の長きにわたり奉職され、生徒に計り知れない影響を授けられた教育者です。その人格は清廉にして高潔、博愛の精神に満ち、ご自身のすべてを生徒のため、学校のために奉じられたまさに三中の象徴とも言える人物です。また、数学の研究者としても名高く、独学にて高等数学を極められ「非ユークリッド幾何学」を著したほか、算額の研究にも優れた業績を収められました。まさに私利私欲を捨て、自己の志への飽くなき追求者であつた孤高の聖人が、我が観音寺一高の先達であられることに大きな誇りと喜びを感じます。

このたび本校生のために、本書のご寄贈を頂きました。

本校ゆかりの偉人であられる中井先生の偉業を生徒たちに伝えることができることは誠に喜ばしいことであり、厚く感謝申し上げますとともに、生徒たちが、先生の生き様を学ぶことで、将来への雄飛に向けた大きな道しるべとなることを、心より祈念いたします。

「道一筋 中井虎男傳」再版に際して

香川県知事 浜田 恵 造

「道一筋」——自身の信念に沿い、教育者かつ研究者として、一本の道をまっすぐに歩まれた郷土の賢人中井虎男先生は、私たち香川県民の誇りです。

その生涯を著す「道一筋中井虎男傳」が、このたび三豊観音寺教育会をはじめ関係の皆様熱意により再版の運びとなりましたことは誠に喜ばしい限りであり、関係各位のご尽力に対し深く敬意を表します。

中井先生は、旧制三豊中学（現 観音寺第一高等学校）で長く教鞭を執られ、専攻の数学だけでなく、人としての成長を説き、多くの若者を養成してこられました。また、生涯を通して数学の研究を続けられ、こうした実直な活動により本県の教育文化の振興に大いに寄与され、第一回の香川県教育文化功労者として表彰を受けられています。

温厚篤実な性格で、教え子からも慕われ、また、郷土のために残された数々のご功績の中の「中井文庫」には、私も高校時代、大いに刺激を受けたところです。

道一筋で歩まれた先生の足跡は、今なお私たちに多くのことを教えてくださり、その精神は、これからも受け継いでいくべき尊いものであります。

再版を機に、この書が多くの人に読まれ、語り継がれていくことにより、広く感銘を与え、誇りと愛着の持てる郷土香川の発展につなげていくことを願ってやみません。

郷土先賢の顕彰「道一筋 中井虎男傳」再版に寄せて

観音寺市長 白川 晴司

この度、「道一筋中井虎男傳」が柘植宗尚様、小山洋一様のご尽力により再版されましたことを心よりお慶び申し上げます。申すまでもなく中井虎男先生は、本市の前身であります旧大野原村の村長として、昭和十年から昭和二十年までの激動の苦難に満ちた十年間を、常に村の発展と村民の福祉の増進のために身を挺して務められました。その生き様は、正に村民の父と言われる所以であり、いみじくも故大平総理の追悼の言葉、「自らの凡てを子弟と郷党に与え尽くされ」に象徴されています。

先生の業績は、胸像の建立を始めとして、叙位叙勲、県教育文化功労者表彰、大野原町名誉町民などのさまざまな栄誉に具現されていますが、なにより旧制三豊中学（現観音寺第一高等学校）の卒業生をはじめ、大野原村民（現観音寺市民）に連綿と息づいていることと推察いたします。

道一筋、郷土の先人の遺徳を今回の再版を通して偲べますことに感謝いたしますとともに、多くの皆様がその足跡を辿られますことを願っております。

大野原と中井虎男先生

元大野原町長 平野 清

中井虎男先生は、旧制三豊中学で三十年間教鞭をとられ、その後、大野原村長として十年間、苦難の時代を乗り越えられました。

晩年、大野原名誉町民第一号となりました。その後先生に続く方はおられません。私も、大野原町と観音寺市が合併する前の十年間、最後の大野原町長として、町政に携わる機会を得ることができ、中井虎男先生の足跡を見つめ、皆様方のおかげで、無事勤めを終えることができました。

物やお金に目が向きがちな現在の中井虎男先生の「おごりのない生き方」は、最も大切なものではないかと思っています。政治の世界、教育の世界にのみならず、すべての人が学ぶべきではないでしょうか。明治・大正・昭和を生き抜いた先人の教えを大切にして、地元の美しい自然を守り、伝統や文化を引き継ぐために、微力ではありますが、残りの人生を捧げたいと思います。

中井虎男先生と数学

香川県高等学校教育研究会数学部会長

香川県立琴平高等学校校長 高 田 耕 治

明治・大正・昭和を数学の研究一筋に生き抜いた人物の一代記です。大野原村に生まれ、旧制三豊中学を卒業後、東京物理学校（現東京理科大学）に学んだ後、郷土に帰られました。旧制三豊中学（現観音寺第一高等学校）で教鞭を執りながら、高等数学を研究し、全領域に精通しておいででした。さらに、数学史や天文学など理科、数学全域にわたっての一途な研究は多くの人々に影響を及ぼしています。

著書に「非ユークリッド幾何学」や「本山寺の算額」があります。郷土の賢人としての生き様を知ること、現代の若者の生き方にも指針を与えてくれる名著であります。是非ご一読していただきたいと存じます。

扁額「事上練磨」について

香川県立三豊工業高等学校長 渡 邊 究

本校の校長室には、「事上練磨」の扁額が掲げられています。これは、中井虎男先生が米寿（昭和四十年二月）の時に、揮毫されたものです。当時の職員によると、創立間もない本校の生徒たちに活動の指針になるものをと、お願いし寄贈されたものです。

本校の校訓は「事上練磨」です。これは創立二十周年を前に、校訓が制定されていなかった本校に、何か適切なものはないかと検討を重ね決定したものです。選定の理由は、工業高校としての本校の教育に合致した四文字であり、中井先生の額の存在も理由の一つであると聞いています。「れんま」の文字は原典に従い、『練磨』としています。出典は、「伝習録巻下」の中で、「陳九川」の質問に対して、「王陽明」が答えた中にみられる、『人は須く事上に在りて磨鍊し、功夫を做すべく、乃ち益有り』です。意味は、「人間は毎日の生活や仕事を通して自分を磨き、修養を積み重ねなければならない。」と、生徒たちに伝えていきます。

生前、中井虎男先生は、本校の入学式、卒業式に出席を賜り、全校生に激励の言葉をいただきました。先生の精神は、扁額「事上練磨」とともに、現在も三豊工ものづくり教育を見守ってくれているように思います。

中井虎男先生を偲んで

観音寺市教育長 大平 幸男

この度、三豊・観音寺教育会編纂による「郷土の顕彰 道一筋 中井虎男傳」が、中井虎男先生を追慕する方々により再版されることに敬意を表し、お喜び申し上げます。

本書を手にし、教育者、学者として、また大野原村長として幾多の業績を残される中、「三豊聖人」と敬慕された中井虎男先生の温かいお人柄に魅了されました。先生のお住まいが私の家の近くであり、好々爺とした先生のお姿を何となく覚えておりましたので、本書を通して大きな感動とさわやかさ、そして懐かしさを感じました。

現在、観音寺市ではめざす子ども像として「生きる力にあふれる子ども」「夢や大志を抱く子ども」「ふるさとを誇れる子ども」を掲げています。

変化の激しい社会を迎えた今日、豊かな人間性を身に付け、人間としてより良く生きていく上で、郷土の文化や伝統、郷土を支えてきた賢人の歩みに触れることは大きな意義があります。本書を通して、先生の歩みが多くの方々に再び親しまれることを願っています。

時を超えて 読み継ごう

三豊・観音寺教育会 会長 中 田 清

昭和五十八年に、三観教育会が発行した「道一筋 中井虎男傳」が観音寺一高卒業生である柘植宗尚氏、小山洋一氏のご尽力により、再版されることとなり、現在の三観教育会の責任者として、感謝の念に堪えません。

書名を冠する「道一筋」は、中井虎男先生の生涯を凝縮したうってつけの言葉です。それはまた、先生の薫陶を受けて、真剣に生きている人々に贈る賛辞でもあり、若い世代への訴えであり、祈りでもあります。

歴史の不思議の一つは、狂瀾怒濤の時代がくると、まるでそれを待ちかねたように英雄や偉人を一度に絢爛と輩出することでしょう。それとはちがって、先生はいつの時代に顔を出しても、かならずその時の代表者になった、なるような気がします。いまなお万人から師表と仰がれる先生の真実を突きとめるために、自叙伝の白眉といわれる本書を読み継いでほしいものです。三観教育会としても道を拓くよすがとしてすがりたいと思います。

要は、先生は、ずいぶんたくさんのごことをなされました。その最大のものは、やはり「中井虎男」だといふべきなのでしょう。

あと書きにかえて

高橋計一先生に「道一筋 中井虎男傳」再版送付経過について

平成二十四年二月、高橋計一先生宅を訪問しました。

先生は、初版「中井虎男傳」を世に出した時の三豊観音寺教育委員会からの三豊・観音寺教育会専任の担当者であり、この本の編集に携わられました。現在九十歳でお元氣にして居られますので、「中井虎男傳」再版本をお見せすると、表紙の色合いや毛筆書きの『道一筋 中井虎男傳』を愛しそうに何時までも大変懐かしそうに撫ぜ擦っておられました。初版本は、毛筆書きの『道一筋 中井虎男傳』ハードカバー紺布金文字豪華表装の来賓用が少数と、会員配布用（再版と同色同装丁版）があり、両方で計三千冊印刷したそうです。豪華表装版は現在観音寺第一高等学校百周年記念館資料室に一冊だけ保存されております。

最後に、先生は、「今日はこの本を見て初版を作った頃を思い出しつつ、読んでみます。ありがとうございます。」と嬉しそうにおっしゃられました。

小山 洋 一（観一昭和四十四年卒）

道一筋 中井虎男傳 再版に寄せて

編集者

「道一筋中井虎男傳再版に寄せて」編集委員会

観音寺市大野原町大野原一七四五

電話（〇八七五）五四―四七六〇

発行者

柘植宗尚（観一昭和三十七年卒）

発行

平成二十四年三月一日

印刷者

（有）有明高速印刷

観音寺市柴町二丁目五―一二